

**【施策評価調査】**

施策名	5-1-4	食に関する指導の充実		115	高根沢町地域経営計画2006 該当ページ	115	小中学生に、食に関する知識や基本的な生活習慣を身に付けさせることによって、将来にわたって健康に生きようとする意識を高める。また、地産地消を推進するとともに、生産者等に対する感謝の心を育む。
	担当部課	教育部こどもみらい課	担当				
環境変化						学校栄養士による食指導を実施し、食の安全性や健康維持に関する正しい知識の普及を図り、町・学校・家庭間における食生活の基本原則(正しい食生活は、健康な身体と心をつくること。)に対する共通認識を確立します。また、町内で生産される農産物を学校給食に積極的に導入し、地産地消を推進します。(「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)	

**指標**

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標：年間食に関する学習時間数(時間)	平成16年度	計画	306時間	306時間	306時間	306時間	306時間
	151時間	実績	306時間	312時間	307時間		
指標：学校給食における町内農産物調達品目数(品目)	平成16年度	計画	30%	35%	40%	45%	50%
	主要食材20品目の内11品目 100%残り9品目の使用率26.8%	実績	35%	35%	47%		
指標：		計画					
		実績					
指標：		計画					
		実績					
指標に関する特記事項							

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	150,674,000	148,700,000	146,692,000		
決算	149,816,461	147,827,409	140,598,500			

**事務事業事後評価 20年度の検証**

施策傘下事務事業	事業費	活動量(アウトプット)	施策への貢献度	施策達成にどう貢献しましたか?(アウトカム)			
生産者の素顔に迫ろう事業費	当初 330,000	交流会実施のべ回数	A	生産者の苦勞話などの生の声を聞いた児童生徒が、いっしょに給食を食べる機会をもつことで、食に対する大切さ(ありがたい、もったいない)といった感情を身につけることができた。			
	決算 146,700	16回 / 32回		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続
学校給食食材材料購入費	当初 146,362,000	学校給食における町内産農産物等の使用比率	A	既に児童生徒たちは、自分の町で作った食材が毎日給食で食べられるという「食に対する安心感」を持っている。今後も安全安心な給食を提供することが、児童生徒の学校生活を送るうえでの糧となる。			
	決算 140,451,800	47% / 55%		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続
	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	

**施策事後評価 20年度の検証**

	施策達成状況に関する評価	課題と今後の方向性
自己評価	食材を作る自然と農業者に対して尊敬する感情を多くの児童生徒が持つことができたと思われる。そしてこれが家族や自分に対する健康や生活習慣について考えるきっかけとなったのではないだろうか。	食育に対して話しを聞くだけでなく、もっと体験する機会を与えることで、知識が身につく、健康について発展することになるなど、体験学習が必要である。
総合評価	継続的に施策展開されていると評価する。 ただし、後期計画策定に向け、再編された各課横断的なプロジェクトチームでの検討を基に、教育委員会として独自の色をどう出していくのか、整理、調整された施策展開を検討すること。 また、それに併せて施策指標も見直すこと。	